

ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局
VOL53 平成 20 年 11 月



医療法人真誠会 創立 20 周年記念式典

平成 20 年 9 月 28 日、米子全日空ホテルにて医療法人真誠会 名誉理事長 日野原重明先生をお迎えして「医療法人真誠会創立 20 周年記念式典」を開催しました。

小田理事長は挨拶で、20 年前に医療福祉の町：ホスピタウンという先進的で大きな構想で、辻田哲朗先生、家原猛先生の協力のもとにスタートしたこと、20 年前から現在の医療の連携、電子カルテの実現を考えていたこと、また平成 8 年に日野原重明先生と運命的な出会いがあり、その後、真誠会理念として「日野原イズム」を取り入れた職員教育をしたことなどを話しました。

真誠会の歴史、ホスピタウンの歴史は小田理事長と日野原先生の運命の出会いによって決定的に変化し、真誠会は大きくなる事が出来たのです。

記念式典には鳥取県西部医師会 会長 魚谷純先生、鳥取大学医学部附属病院 病院長 豊島良太先生、河崎地区自治連合会 会長 足芝忠夫様、株式会社中海テレビ放送 専務取締役 高橋孝之様より祝辞が述べられました。

祝辞の中で来賓の皆様からは、真誠会に対する高い評価とともに、今後の地域医療福祉活動に対する期待が寄せられました。

医療法人真誠会にとって、過去の 20 年間は人の成長にたとえれば身長が高くなり、体重が増加する成長の時期でした。

これからの 10 年、20 年は知的になり、愛があり、配慮がある医療法人に成熟して行く時期になると思います。

またこの記念式典では、33 人の 10 年以上の永年勤務者や優秀職員の表彰が行われました。

小田理事長は最後に、10 年後の創立 30 周年記念式典への日野原重明名誉理事長の参列をお願いし、式典は厳粛な中にも暖かい雰囲気の中で終わりました。



医療法人 真誠会
社会福祉法人 真誠会
理事長 小田 貢

医療法人真誠会 創立20周年記念式典 挨拶 要 旨

医療法人真誠会 理事長 小田 貢

20 年前に「ホスピタウン」という名前の医療福祉の町づくりを始めました。当初はいろいろな難問があり、不安もありましたが、ウィリアム・オスラー博士著、日野原重明先生翻訳の「平静の心」という本に救われました。

その「平静の心」には次のような言葉がありました。

「その日の仕事を精一杯やり、明日について思い煩わないこと」

「働け、そして希望を持て」

「医療とは、ただの手仕事ではなく、アートである。商売ではなく天職である。」

このような教えに励まされて開業に向かって行きました。

そして、私がホスピタウンとしてテーマに上げたことは、

- 1) 地域医療
- 2) 継続看護
- 3) 医療連携
- 4) IT によるネットワーク (電子カルテ化を含む)
- 5) チーム医療

でした。

その後、辻田哲朗先生、家原猛先生、中下英之助先生の協力でホスピタウンを次第に大きくすることが出来ました。

平成 7 年ホスピタウン (後の米子ホスピタウン) が完成したとき、私は島根県吉田村 (ケアポート吉田) で初めて日野原先生にお会いすることが出来ました。

その後、真誠会は日野原先生の著書「看取りの愛」を正式な職員教育の教科書に指定して勉強会を開き、日野原イズムの理解と実践をしました。

平成 10 年 9 月 9 日の医療法人真誠会創立 10 周年を機会に、日野原先生に医療法人真誠会 名誉理事長にご就任いただきました。

その 10 周年記念式典で私は挨拶の最後に、日野原先生からの教え

「われわれがここにあるのは自分のためではなく、他の人々の人生をより幸せにするためである」

「優れた人生は、愛 (love)、すなわち人間愛 (charity) によってのみ全うすることができる」の精神で医療福祉の理想郷を目指すことを決意を表明しました。

平成 12 年 (2000 年) 弓浜ホスピタウン (弓浜ゆうとぴあ、ピースポート) が完成し、社会福祉法人真誠会が設立されました。

その後、ケアハウスリバーサイド、グループホーム青松庵、小規模多機能センター真誠会ふる里と 4 箇所の認知症専門通所デイサービスなど次々に事業を広げてきました。

20 周年の今年は、

- 1) 真誠会セントラルクリニックで「電子カルテ化」
- 2) 介護予防センターの開設
- 3) 医療法人有真会の吸収合併

を実現し、平成 20 年における真誠会はグループ全体で以下のように成長しました。

総従業員 430 人
 事業所数 27 事業所
 通所総定員 255 人
 施設総定員 320 人

「未来に向かって」

私はこれからも「平静の心」をもち大空に「医療福祉の理想郷」という大きな円の弧を描き、それを広げて行き、地域の医療福祉、安心できる社会作りに寄与したいと思っています。



小田 貢理事長
小田蓉子副理事長



医療法人真誠会 名誉理事長 日野原先生よりお祝いのお言葉をいただきました

ご来賓の皆様にご祝辞を頂きました。



鳥取県西部医師会
会長 魚谷 純先生



鳥取大学医学部附属病院
病院長 豊島 良太先生



河崎校区自治連合会
会長 足芝 忠夫様



株式会社中海テレビ放送
専務取締役 高橋 孝之様



創立20周年記念職員表彰

創立20周年を記念して、森本靖子真誠会副本部長が「功績賞」、萬谷茂システム担当総務係長が「優秀職員賞」を受けました。森本副本部長は、真誠会の教育システムを構築し真誠会での医療福祉レベルを向上させたこと、萬谷係長は真誠会に電子カルテを始めとしたコンピューターシステムを構築したことが受賞の理由でした。その後、10年以上の勤続者33名が表彰状と記念品を受けました。

最後に、スタッフから名誉理事長日野原先生、小田理事長に花束が渡されて記念式典が終了しました。

「新老人の会」鳥取支部フォーラム 日野原重明先生記念講演会

平成 20 年 9 月 28 日米子全日空ホテルにて「新老人の会」鳥取支部主催、医療法人・社会福祉法人真誠会、NPO 法人がいなネットが共催で日野原重明先生記念講演会が行われました。

オープニングとして、ゴスペルオーブ（小徳浩子さん主宰）のコーラスで始まりました。特にグループが「崖の上のポニョ」を歌ったときには、日野原先生は身を乗り出してグループの振り付けに合わせて体を動かしていらっしゃいました。

日野原先生は「生き方の新しい選択—そのモデルをどう求めるか—」という演題で講演をされ、聴衆に感動を与えられました。

この約一時間の講演中、まもなく 97 歳の日野原先生はステージの上を歩き回って講演され、80 歳代、いや 70 歳代のような若さをアピールされました。

エンディングは合唱団コラッジョのコーラスで終わりました。そのあとで突然現れた、かわいらしい子どもたちから日野原先生に一足早い 97 歳のお誕生祝の花束が渡されました。

その後、合唱団コラッジョ、ゴスペルオーブ、それに聴衆全員が加わって日野原先生に "Happy Birthday to You" を歌いました。

その後は日野原先生のタクトで全員が「ふるさと」を歌い感動の中で閉会となりました。



オープニングはゴスペルオーブの歌声で始まりました!



550名の聴衆の皆様にお越しいただきました



日野原重明先生



合唱団コラッジョの皆様



10月4日のお誕生日で97歳になられた日野原先生に、みんなでハッピーバースデーの歌をプレゼントしました♪



日野原先生の指揮で「ふるさと」の合唱をし、会場が一つになりました

真誠会シャトルバスの運行開始(無料)

定員
14名

高齢になると足腰が弱くなり、また認知症になると運転免許証を取り上げられるために病院の受診が困難となります。

特に真誠会セントラルクリニックを受診するには公共の交通機関が少ないために非常に不便でした。

そこで平成 20 年 5 月より定員 14 名の真誠会シャトルバスを内浜ルート、外浜ルートで運行を開始しました。

運行開始直後は一日に 5 人から 8 人ぐらいでしたが、9 月では一日平均 14 から 15 人、多いときには常に満席の乗車があるようになりました。

患者さんの中にはまだシャトルバスの運行や、時間、ルートを知らない方もありますが、次第に利用者が増え定着すると予想しています。真誠会セントラルクリニックにて時刻表を用意していますので、お気軽に声をかけてくださいませ。



真誠会ホームヘルプアカデミー開講



真誠会では、長年の念願であったホームヘルパー 2 級養成事業を開始しました。平成 20 年 5 月 12 日、第 1 期生の開講式がありました。

開講式にあたって小田 貢校長が、豊かな人間性のあるヘルパーの育成、日野原イズム(日野原重明名誉理事長)に基づく利用者中心のヘルパーの育成、利用者に信頼されるヘルパーの育成など真誠会ホームヘルプアカデミーの方針を述べました。受講生はその後 6 月 11 日まで熱心に講義、実習を受け第 1 期生が卒業しました。

そして平成 20 年 10 月 1 日から第 2 期生が入講してきました。これからも次々にこの真誠会ホームヘルプアカデミーから新しいヘルパーが巣立って行き、真誠会ホームヘルプアカデミー卒業生であることを誇りにして、これからの福祉社会で活躍されることでしょう。



第1期の受講生たちです!



第2期生の講義が始まりました!

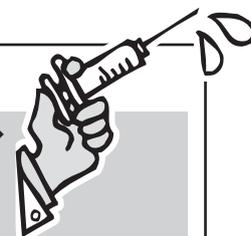
こわい!こわい!インフルエンザ

インフルエンザとは、インフルエンザウイルスの感染によっておこる病気です。主な症状としては、高熱(38~40度)や頭痛、筋肉痛、全身倦怠感などの全身症状と、のどの痛み、咳や痰などの呼吸器炎症症状などがみられます。普通の風邪と間違われることがありますが、重症化、合併症を引き起こすこともある恐い感染症です。

高齢者の方がかかると肺炎を併発したり、もともとある病気を悪化させたりすることもあります。毎年、12月下旬から3月上旬にかけては多くの方がインフルエンザにかかって流行します。

◆日常生活でできる予防方法◆

- 1 栄養と休養を十分にとる。
- 2 人ごみを避ける。
- 3 適度な温度、湿度を保つ。
- 4 外出後の手洗いとうがいの励行。
- 5 マスクを着用する。



そしてまずは、インフルエンザワクチンを必ず摂取しましょう!真誠会セントラルクリニックでも行っています。

☆お問合せ先☆

真誠会セントラルクリニック TEL (0859) 29-0099

介護予防センター開所される

介護予防センターは旧中下医院の1階を改装して作ったもので、平成20年6月2日に河崎校区、御建地区の皆さんを招待して開所式が行われました。

開所に際して、小田理事長が、これからの高齢社会における介護予防活動の重要性と、それを真誠会の重要な柱にすることを挨拶で述べました。その後、河崎校区自治連合会 会長 足芝忠夫様、御建自治会長 北村軍二郎様より、介護保険に対する期待のお言葉をいただきました。

来賓挨拶の後、ポールルームダンス門脇成枝先生を始めとする生徒さんによるダンスの披露があり、最後には式に参加した皆さんも一緒にダンスに加わって盛り上がりました。

また施設見学会では、駐車場で、くじ引きや豆腐の販売も行われ、豆腐はあっという間に完売しました。介護予防という概念は、平成18年の介護保険の改定により作り出されたものです。介護予防とは、

健康長寿で人のお世話（介護をされる状態）にならないように予防する目的で作られました。

利用者の対象の多くは、今まで要介護1であった方ですが、新規で要支援1、2に認定された方も対象になります。いわゆる元気な高齢者の皆さんです。「今は元気だから大丈夫」ではなく、今からいろいろなトレーニングで肉体を鍛え、身体能力、持久力を蓄えておくことが大切です。



介護予防センター
スタッフ一同です!



華麗なダンス♪



見学会に来ていただいた皆さんに体操を体験していただきました

訪問看護ステーション ネットケア

2008年のネットケアは 裾広がり!!

訪問看護ステーションネットケア 所長 岡田 悦子



呼吸器を使用中ですが、七夕を楽しんでいただきました
笑顔に私たちも癒されています (画像は了解を頂いています)

「こんにちは、ネットケアです」利用者さんは「ネットさん」と気軽に呼んで下さいます。「ネットさんのように優しくて穏やかな看護師さんに」と他のステーションから移行されるケースも少なくありません。

現在ではハイテクケアが主流になり、どんな医療ニーズにも対応できる力を備えています。適切なアセスメントと確実なケアの提供に自信を持っています。「ケアが行き届いている」「生きる希望が湧いてきた」「ネットさんに任せておけば大丈夫」と利用者様からは嬉しいお言葉を頂いています。

各病院の連携室に続き、難病支援センターさんとも顔の見える関係が構築できました。これにより、地域の皆様の支援が拡大できると思っています。

Q 訪問看護さんってどんなことをしてくれるの? 例えばこんな悩み、相談・・・

- ・家のお風呂に入りたい、身体の清潔を保ちたいんだけど・・・
- ・人工肛門の手当てが不安
- ・人工呼吸器や酸素をしていて不安
- ・体調を崩し易いんだけど・・・夜でも来てくれるの?
- ・家で過ごしたいのに、点滴が欠かせないんです・・・
- ・気持ちが不安定なんです
- ・残りの人生を自宅で過ごし、安らかに逝きたい・・・
- ・癌の痛みを和らげて欲しい・・・
- ・便や尿の管理が心配・・・
- ・いろんな傷やチューブがついているので心配・・・
- ・床ずれが出来ただけけど・・・予防はどうするの?
- ・認知症で薬の管理が難しくなったのだけど・・・
- ・リハビリをして散歩が出来るようになりたい・・・

A このような不安も私達の適切かつ丁寧なケア技術で安心して、ご自宅でご家族と共に過ごせます。



辻田耳鼻咽喉科



辻田耳鼻咽喉科
院長 辻田 哲朗

いかいやソウル 2008

今年もまた飽きもせず職員と一緒にソウルに行ってきました。もう何回目になるのかわからない位です。でもソウルに行く度に新しい驚きに出会います。

何時もそうですが、ソウルでは韓国語を話す日本人が珍しいらしく少しでも韓国語をしゃべると驚いてとても親しく接してくれます。だから韓国人が好きになるし、ソウルに行くのがやめられません。

今回はそんなアメイジングな愛すべきソウルの人たちを紹介します。

・韓国人は商売がうまい

韓国に行かれた人はよくわかるかと思いますが、ソウルでは店でも屋台でも日本人をみると鴨がネギしょって来たかのように、日本語で客引きをするのに出会われたかと思いますが、とにかく不思議なことに、彼らは一目見ただけで日本人かどうか分かるようです。今回は南大門市場、明洞などで出会ったアジョッシたちです。



南大門市場の韓国ノリ屋。ここのノリがいかにかにうまいかを流暢な日本語で話してくれました。結局ここでは6名全員がノリをしこたま買ったんで、お礼におまけをたくさん奮発してくれました。

明洞の屋台のようなTシャツ屋。ここでも日本語がうまいアジョッシにつかまり、いろいろ買ってしまいました。それにしても明洞は日本語でいっぱい。



・韓国の食堂では従業員も店のテーブルで飯を食う

これも韓国に行ったことがある人ならピンとくると思いますが、韓国の食堂では（一流じゃない少しB級の食堂です）、客がいるのに全然かまわず従業員も一緒に店のテーブルで飯を食います。これにはだいぶ慣れてきましたが、最初はとてもびっくりしたもんです。ホント韓国人はケンチャナヨです。



ソウル市庁近くの焼き肉屋で。この時は閉店間際に行ったから、帰る頃になると、ボくら客の目の前で従業員全員が飯を食べてました。しかもビールなんか飲んで酒盛りしたりして。韓国のアジュンマにはかなわんなあ。

・本屋では本は立ち読みならぬ、座り読みをする。

ソウルには東洋一広いフロアーを持つ本屋があります。そこではあらゆるジャンルの本が置いてあり日本の本もほとんどリアルタイムで置いてあります。この本屋では誰もが本を立ち読みならぬ、床に座り込んで本を読んでいた。しかもそれを店員も誰一人として注意しません。このことを知り合いの韓国人に話したら、「どうして？立ってるより座って読んだほうが楽でしょ」ウーン、そういう問題じゃないんだけど。

ソウルにある教保文庫という本屋で。大人も子どもも買う気もないのに長時間座り読みです。



いえはら 歯科



いえはら 歯科
院長 家原 猛

ホスピタウン 20 周年目の秋に

この 10 月の連休、仙台での学会から少し足を伸ばして奥州平泉を訪ねた。日本史を学び始めた中学生の頃から何故か気にかかる地であった。平安時代の末期、京都の朝廷貴族文化から鎌倉武士の文化に移行する地方豪族、地頭、荘園の時代。道の奥（みちのく）の彼の地に花開いた奥州藤原氏（清衡・基衡・秀衡・泰衡）による中尊寺金色堂に代表される仏教文化は、不思議なくらい輝いて感じた。（事実マルコポーロに黄金の国ジパングと言わしめた基は中尊寺の金色堂に在ったらしい。）

朝廷の中央集権的権威が、自然の恵み豊かなみちのくを襲った。陸奥安倍氏が滅びた前九年の役、後三年の役で出羽清原氏も滅亡し、複雑な家督覇権争いを経た藤原清衡から受け継がれた平泉の理念は、戦のない、仏教による平和社会の構築であった。初代清衡は 2 つの戦乱で亡くなった人々の霊を敵味方の別なく慰め、諸仏の功德を直に受けることができる場（まほろば）として中尊寺を建立した。二代基衡は父の遺志を継いで中尊寺よりもさらに規模の大きい毛越寺を造立し、三代秀衡が完成させた。さらに、京都宇治の平等院を模して建てられた無量光院は極楽浄土をこの世に表したもので、本堂は極楽の宮殿を意味し、庭園は極楽世界そのものを表現して建立されたといわれている。これらの背景には、膨大な量の産金と南北交易による大きな利益があり平泉を支えていたようである。

平泉はおおよそ 100 年近くにわたって地方都市のさきがけとして繁栄し、みちのくは戦争のない平泉の世紀であった。しかし、朝廷の権威、鎌倉の源頼朝の勢力と平泉の相対した厳しい状況下で、源平の戦いと義経の保護の問題もあり四代泰衡で奥州藤原氏は滅亡する。

今の平泉には精巧に修復保存された輝きと同時に、時の流れに消え去ったはるかな歴史の面影と風雪に耐えて守り伝えた信仰の美しさを見ることができる。そして、藤原清衡の偉業に心動かされるのである。

残念ながら今回の世界遺産の登録は見送られた。しかし、平泉にこの山陰の地にも共通する澄んだ空気を感じ、湧き出る恵まれた清水を目にした時、心の平穏さと生きる純粋な力が湧いてくる気がした。ホスピタウン 20 周年目を迎え、良い re-set ができた気がした。



真誠会セントラルクリニック 電子カルテ化始まる



真誠会セントラルクリニックでは、平成 20 年 9 月から外来部門の電子カルテ化が開始となりました。真誠会セントラルクリニック小田院長は、20 年前の開院のときから電子カルテ化を夢見ていたのですが、実際に電子カルテが実用化され価格的にも導入可能になるまで約 20 年かかりました。

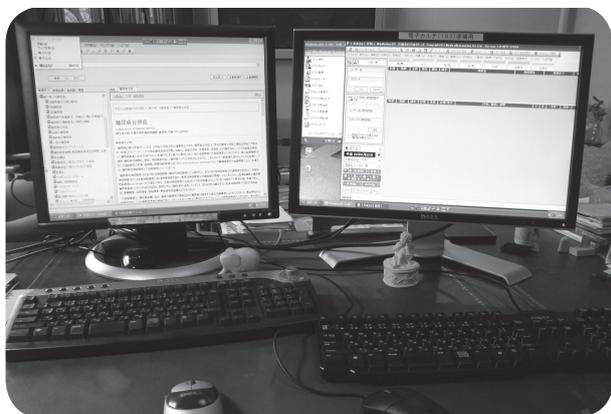
電子カルテの導入は病院でも大変なことですが、真誠会は以前より施設全体がネットワークで結ばれておりスタッフ全員が IT ネットワークに馴染んでいるので、一般的な導入よりは、はるかに円滑に出来ました。

9 月に電子カルテを導入した直後は、患者さんの待ち時間が多少長くなってしまいご迷惑をおかけしましたが、10 月からは紙カルテ時代よりも待ち時間が大幅に短縮されました。

電子カルテの長所としては、患者さんの状態を画像に取り込んで記録し、診察室のパソコンで瞬時に見ることが可能ですので、患者さんに説明もしやすくなりました。

10 月からは真誠会の透析室オアシスでも電子カルテ化が始まりました。そして順調に行けば、12 月より真誠会セントラルクリニックの病棟でも開始となり、本年度中に真誠会セントラルクリニック全体の電子カルテ化が終了します。

今年は、創立 20 周年の区切りであり、真誠会のさらなる発展への再スタートになります。



医療法人有真会 (米子医療画像診療所)の 吸収合併



平成 20 年 10 月 21 日、医療法人真誠会は医療法人有真会を吸収合併しました。

医療法人有真会は米子医療画像診療所（画像診断部門、健診部門）を運営しておりましたが、今回の合併により CT、MR 部門は真誠会セントラルクリニックの医療画像部門となります。



また健診部門は真誠会健診センターとして引き継がれます。これで真誠会セントラルクリニックは医療部門、高齢者福祉部門（介護保険）に加えて医療画像部門の充実と保健部門（健診センター）が充実されました。

健診センターは現在約 7000 人の顧客数ですが、二年以内に 10000 人の顧客数に伸ばすのが目標です。

財団法人米子法人会より古タオルの贈呈



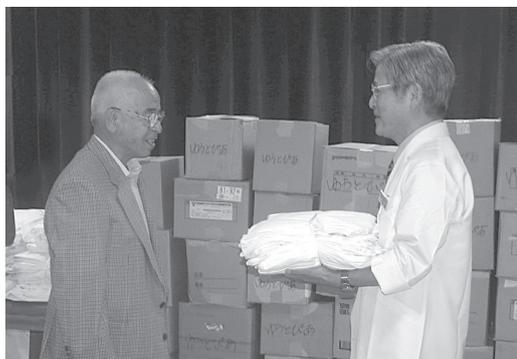
平成 20 年 9 月 25 日、米子法人会より古タオルの贈呈がありました。

老人福祉施設への古タオルや布切れなどの贈呈は、平成 15 年度より、米子法人会の社会福祉・環境保全を目的とした活動で、その理解と啓発のために開始されたものです。

米子法人会の総務委員長 木田達二様他 15 名の皆さんが介護老人保健施設ゆうとぴあへ来所され、贈呈式が行われました。

ダンボール約 40 箱の膨大な量の古タオルや布切れなどを贈呈して頂きました。贈呈式の後、米子法人会の皆さんと小田理事長で意見交換が行われました。

老人福祉施設では雑巾や、排泄の後始末などにとっても貴重ですので、ありがたい贈り物でした。心より御礼申し上げます。

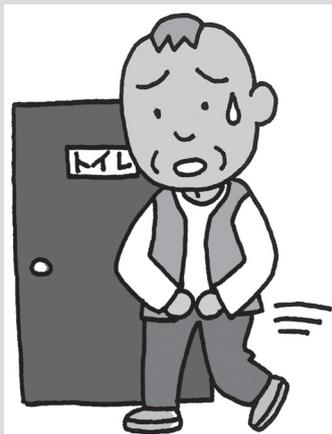


米子法人会木田様より小田理事長へ贈呈されました

.....排泄問題の落とし穴

高齢化と共に頻尿や尿意切迫、尿失禁などの蓄尿障害や尿の勢いの低下、排尿時間の延長などの排出障害で受診される患者さんが増えています。外来診療の合間に、しばしば患者さんや家族の方より日常の社会生活における排尿障害に纏わる悩み、苦勞話を聞く機会があります。

仕事関係では会議中に尿意をもよおして、早く終わりたいために、意に反した対応をした。教師の方も尿が近くて、尿意切迫に対する不安からせつち、早口になってしまうなどのぼやきが聞かれました。日常生活では頻尿があると外出時トイレの場所が気になり通路側の席に座り、水分摂取が控えめになります。尿失禁があれば運動を伴う行事に参加が消極的になります。運動機能の低下あり施設リハビリのために通所している、用介護の人の中に頻尿や排尿時間の長い排尿困難の方が多ければ、長時間トイレが占拠されるために、トイレの順番待ちや、トイレの占拠時間の長い人への愚痴不満が聞かれるなど、排泄障害に対する悩みは尽きません。



排泄行動はトイレへの移動、排泄行為により成り立っており、運動機能の低下した場合には、トイレへの移動に関しては、介護施設のように身近にトイレの設置など家庭環境の整備が必要ですがかなりのコストが必要です。まずはリハビリで移動運動能力の保持を目指し、ADL の改善がはじめになされることと思います。

人間にとって摂食と排泄は表裏一体をなす生理現象ですが、その社会的な扱いはずいぶんと異なります。そして排泄行為は、不潔なものとしてタブー視され、無知と偏見が見られます。このために患者さんは相談をためらい、健康人は注目しなくなり、医療の片隅に追いやられます。健常者、医療従事者も排尿障害患者さんの視点でみつめなおすことが重要です。

老人保健施設の日常



介護老人保健施設
ゆうとぴあ

施設長 中下英之助

第2回地域交流ふる里まつり

平成 20 年 10 月 4 日、小規模多機能センター真誠会「ふる里」で第 2 回地域交流ふる里まつりが開催されました。

ふる里まつりは、地元和田町のボランティアの皆さんの協力を得て行われています。第 2 回となる今年は、第 1 回に増して地元の皆さんの強い団結力とリーダーシップによって早い時期から実行委員会が結成され周到に準備されてきました。

まつりの当日は、ふる里の前庭に舞台を設置し、急造の屋台も設けられました。

まつりは、13 時 30 分からの開催でしたが、あまりにも沢山の来場者がおられたので、急遽 5 分ぐらい繰り上げて開催されました。(来場者 600 人)

オープニングは、子どもたちによる「和田荒神太鼓」で元気よく始められました。

その後、約 12 団体の出し物が次々に披露されました。

子どもさんは、金魚すくいや、ヨーヨー釣りを楽しみ、屋台でのバザー市、たこ焼き販売、参加者全員が楽しめる大抽選会があり大いに賑わいました。

また地元の有志で前日に 400 個作った「ののこ飯」は、発売開始と同時にあっという間に売切れてしまいました。ののこ飯をつくられた有志の皆さんは、「来年は 500 個つくる!」と話し合い夢は来年に向かっておりました。

結局当日は約 500 人近くの来場の皆さんで盛況のうちに終わりました。

この第 2 回地域交流ふる里まつりの模様は同日の中海テレビでも放映されました。

この第 2 回地域交流ふる里まつりの模様は同日の中海テレビでも放映されました。



たぁ〜くさんの地域の方が参加してくださいました



ふる里まつりのはじまり〜!!



ののこめし♪大好評でした^o^



~みんなが主役!みんなで作ろう運動会~

真誠会デイケア・ゆうとぴあデイケア合同運動会報告

通所リハビリテーション真誠会 看護師長 佐平 登志美



はちまき巻いて気合充分!!

今年で 5 回目になる合同運動会が開かれました。始めた動機は、意欲を取り戻す瞬間・昔していたことで笑顔や行動が活発になることはないかと考えたのが運動会でした。

初回の運動会は、平成 16 年でしたが、当時は、利用者の方が中心というより、まだまだ職員が中心で、介護保険の目的である自立支援にはやや遠い運動会でした。

その後、会を重ねるたびに「主役は利用者」、「職員は黒子」から利用者中心の運営に変化しました。家族の方にも参加を呼びかけ、お昼は一緒に松華堂弁当を召し上がって頂いています。真誠会の松華堂弁当は豪華で味も良く「病院の食事というよりは料亭のお弁当みたい。」と召し上がった方からお声を頂いています。

さて、本命の運動会の様子ですが、やはり思ったとおりでした。皆さん血が騒ぐというか、普段にはない勢いで、色違いのはちまきを巻き子供時代に戻られたかのように競技に参加されます。いつもは、痛くて動かないはずの手や足が動くのが不思議ですが…

とにかくいくつになっても、やっぱり勝ち負けの競技は大好きなようです。家族で参加する方は、子供時代、親と子供で参加した運動会から、何十年の月日が流れ親の手を引き運動会に参加されています。見ているととても暖かくすばらしい光景です。

来年 6 回目の運動会は、更にバージョンアップをします。多くの家族の方、ボランティアの参加を呼びかけたいと思います。



ペットボトルに水を注いでいます…どっちが早くいっぱいになるかなあ〜

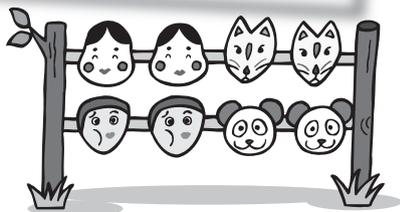


来年も楽しみですね♪

米子ホスピタウン (河崎)

第14回米子ホスピタウン夏祭り

8月9日(土)、「第14回米子ホスピタウン夏祭り」が開催されました。地域の方々、子ども達の出し物もあり、とっても盛り上がりました!利用者の皆さん全員が笑顔になり、夏のひとときを楽しむことができました。地域の方々もたくさん来てくださり、ゆうとぴあ広場が満員になるくらいでした。来年も楽しみだなあ~夏祭り♪ (来場者 600人)



弓浜ホスピタウン (大崎)

第9回弓浜ホスピタウン地域福祉交流夏祭り

米子ホスピタウンに続き、8月23日(土)弓浜ホスピタウンにて「第9回弓浜ホスピタウン地域福祉交流夏祭り」が開催されました。皆さんの熱気で、2000年ホール全体が最高潮に盛り上がりました。バザーもたくさんの方に来ていただき、大盛況でした。最後は、新人職員によるソーラン節で幕を閉じました。来年も楽しみにしててくださいね♪ (来場者 800人)



医療法人真誠会 創立20周年記念式典

祝

お祝いの言葉

(要旨)

医療法人真誠会 名誉理事長
日野原重明先生



大きな物事は一人では出来ませんが、ホスピタウンは小田先生をはじめホスピタウンの先生方、たくさんの皆さんの協力があったからこそ出来たものだと思います。

真誠会が過去 20 年加速度的に発展してきましたが、これからの発展を考えるとわくわくしてきます。

星の王子さま (著者:サンテグジュペリ) の中で
Lovedoesnotconsistingazingateachother,
butinlookingoutwardtogetherinthesamedirection.
AntoinedeSaint-Exupery

“愛の本質はお互いを見る事にあるのではなく、外に向かって同じ方向を見ることにある”と書いてありますが、人々がたとえそれぞれの立場、足場は異なっても何か同じ目標に向かって進めることが大切です。

ホスピタウンでも同じように同じ夢、目標をもって努力をされた結果、現在があると思います。

ホスピタウンは、私 (日野原先生) が訳した「平静の心」の中のオスラー博士の生き方の哲学 (philosophy フィロソフィー) を元に発展してきておりますが、「人から何をうけるかということより、自分たちは社会に対して何ができるか」ということを考え、まず自分たちが出来ることを果たしていただきたい (give-and-take ギブ・アンド・テイク) と思います。

小田先生から 10 年後の 30 周年記念式典にも参加してほしいと言われたので、それを神様の前で、そして皆さんの前で、そして何よりも私自身に対して約束 (コミットメント) しなければならぬと感じました。

そしてそのような約束事を作ることが長生きのために非常に重要なことであると思っております。

私はたくさんの理事長を務めておりますが、名誉理事長は真誠会だけであり、今回その 20 周年記念の場に、健やかな状態で参加できたことをうれしく思っております。

そしてその真誠会の 30 周年に向かって名誉理事長としての責務を果たしたいと思っております。

日野原 重明

財団法人 ライフ・プランニング・センター理事長
聖路加国際病院 理事長
聖路加看護大学名誉学長・理事長
「新老人の会」会長
日本オスラー協会 会長



思わず顔よせあって、
日野原先生とビッグな
はい、ポーズ!

小田理事長にとって最高の
20周年記念となりました!!